



家庭内で子どもに「役割」を担わせましょう

「青少年育成センターだより第188号」で、家庭において子どもに洗濯、トイレ掃除、料理、ボタン付け等をさせましょう。このような経験（体験）の中に大きな学びがあり、そのことにより「生きる力」が身につくのだと、子どもに経験（体験）させることの大切さについて考えました。

今号では、子どもに「役割」を担わせることの大切さについて考えてみます。

・・・今どきの子供たちを見ていると、家庭生活がはなはだ不十分だと感じます。親が身の回りの世話をしすぎて、「お客様」どころか「王様」になっている子が大勢います。朝はお母さんが起こしてくれて、朝食をつくってくれて、お弁当を持たせてくれて、学校から帰れば塾の送り迎えをしてくれて、塾から帰ればお風呂が沸いていて、お風呂から出ればつきっきりで学校や塾の宿題を手伝ってくれて・・・。そんな生活では、一人前になれません。必要なものが労せずして提供されてばかりでは、何かを求める心＝物事への関心も生まれません。さらに言うと、自己肯定感も育ちません。すべてが人任せだと「自分は～できる」という実感が得られないからです。物事への関心と自己肯定感を育てるには、生活の主体になることが不可欠です。つまり、家庭の中でなんらかの「役割」を担わせることが必要なのです。どんなことでも構いません。「新聞を取ってくる」でもいいですし、「ゴミ出し」でも、「洗濯物を畳む」でもいいでしょう。一度決めた役割は、必ず子供にさせること。さぼったときも、親が代わりにしてあげるのは厳禁です。ゴミが溜まろうが洗濯物が溜まろうが、ここは我慢のしどころ。目も当てられない状況になったとき、子供は必ず「自分がやらなければ、家庭が回らない」と認識します。自分の役割を果たさなくては、家族が困る。疲れていても面倒でも、これだけは自分が責任を持ってやらなければ、と知ることで、子供は自己コントロール力を備えます。それだけではありません。役割を果たして感謝されることの喜びや、慣れるに従って段取りや作業がうまくいく達成感も味わいます。小さな社会の一員として役立っていることへの、誇りも得られます。その自信と自己肯定感は、子供の「一生モノ」の宝となるでしょう。・・・

「子育てを変えれば脳が代わる」 著 成田奈緒子 PHP新書

著者は、子どもには家庭の中で「役割」を与え、その責任を果たさせることが大切であり、その過程で得られた**自信と自己肯定感**は、子どもの「一生モノ」の宝になるのだと言っています。

「生きる力」をはじめ、生きる上で大切なものは、学校で学んでくれることを期待している方が多いのではないのでしょうか。しかし、学校でなくても、家庭の中で「役割」を与えることで「生きる力」をはじめ、得られるものがたくさんあるのです。

自己肯定感が高い子どもは、「何事も前向きに考えることができる」「自分をしっかり持ち、主体的に生きることができる」という特徴があるとされています。そんな**自己肯定感**が高い子どもに育ってくれればいいですね。